図書館備付図書選定ガイドラインについて

図書館備付図書とは、大学院・学部学科に配当される予算で購入し、図書館に所蔵され、共同利用が望ましい資料のことです。これらの資料は大学の資産となります。選定においては、「椋山女学園大学図書館資料収集規準（平成30年大規準第5号）」及び以下の「図書館備付図書選定ガイドライン」を確認してください。

- ① 図書館備付図書は、大学院・学部学科に配当される予算で購入し、図書館に所蔵される資料です。
- ② 具体的には、大学院生・学部学生の学修・研究に必要な図書（辞書・事典類を含む）・視聴覚資料等で全学部共通利用の対象となります。
- ③ 図書館備付図書費は、授業の教材用資料の購入予算ではありません。
また、教員研究用資料の購入予算でもありません。学生の学修と研究のためにあります。教員の研究用に使用する目的で購入する費消資料は、研究費での購入をお願いいたします。
- ④ 研究費等の費消図書予算で購入できなかった高価な資料を図書館備付図書費で購入することはできません。従って、高価なセットものや視聴覚資料（著作権処理済）の選定にあたっては、学生が有効活用する資料かどうか十分にご検討ください。
- ⑤ 資料保存スペースの狭隘化が深刻な状況であるため、原則として、データベース（オープンアクセス誌を含む）等で閲覧可能な資料の冊子体は、図書館備付図書費では購入しません。
また、中央図書館あるいは日進図書館ですでに所蔵している資料についても、特段の理由がない限り、購入の対象とはしません。
- ⑥ 新聞雑誌費での購入が望ましいと思われる資料については、雑誌担当者に相談してください。（例：検定本、問題集等）

ガイドラインで選定の可否を判断しかねる場合には、椋山女学園大学図書館資料収集規準（平成30年大規準第5号）第3条第2項に基づき、資料選定委員会において審議することになります。

以上